

III 基準ごとの自己評価

基準1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点1－1－①：高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では、目的及び使命を学則に掲げている（資料1－1－①－1：学則）。時代の変遷に伴い社会や産業構造の変化はあるものの、本校が社会に対して担う基本的な役割は不変であると考え、この使命は現在も継続している。

資料1－1－①－1

学則 第1章目的及び使命

第1章 目的及び使命

第1条 金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、学校法人金沢工业大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

- 2 本校は、前項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。
- 3 前項に關し、必要な事項は、別に定める。

(出典 学生便覧 2012 P.34)

本学園は、昭和32年に設立した北陸電波学校を母体とし、その理念を基盤として昭和40年の金沢工业大学設立に合わせて、本校と大学が共有する建学綱領を「人間形成」「技術革新」「产学協同」と定め、三大建学綱領として掲げた。これを起源として教育・研究の環境及び支援組織を大学と共に用し、充実した学習環境を整備してきたことが本校の特色となっている（資料1－1－①－2：学生便覧2012 建学綱領）。

平成14年、本校及び大学は、学園の建学綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献することを宣言した。工学アカデミアは、学園を構成する学生、理事、教職員が学園共同体の一員として行動する際、意思決定の根底をなす価値群である“KIT-IDEALS”を共有し、お互いが必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場である。爾来、「思いやりの心」「知的好奇心」「共同と共創の精神」「誠実」「勤勉」「活力」「自律」「リーダーシップ」「自己実現」の9つのそれぞれの英語表記の頭文字からなる KIT-IDEALS が、学生、理事、教職員の行動規範となっている（資料1－1－①－3：工学アカデミアと KIT-IDEALS）。

資料1-1-①-2

建学綱領



建学綱領

学校法人金沢工業大学理事長

泉屋利郎

本学園の建学精神

本学園の建学の精神は、本学園の母体である北陸電力学校初代理事長故鈴木保二氏の高邁な理念を継承し、これを貫徹することであります。その精神を一言にして要約すれば、全人類の普遍原理たる人間主義の哲学であります。

この建学の精神は、創設以来、本学園の向上発展に貢献された創設理事泉屋利郎氏によって真摯に継承され、かつ、本学園が法人名を学校法人金沢工業大学と改称し、日本の最高学府たる高等教育機関として躍進するにあたり、建学の綱領を「人間形成」「技術革新」「産業協同」に定め、これを三大信条として掲げたのであります。

それは、日本人としての誇りと確固たる精神を保持し、国際社会に寄与し得る人材、次代の技術革新を担う人材、そして人類の豊かな発展を麻痺し得る人材の育成と産業一体の学術探求とを目指すものであります。

併せて本学園の理事、教職員並びに学生は、日本国民の節度ある決意をもって、自己の人間形成に努め、相互に切磋琢磨を行い、全学が和衷協同の理念に従事し、そして日本文化の進歩と世界平和の建設に貢献することこそ建学の精神実現への道であることを深く認識しなければなりません。

教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フィヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を個自身たらしめることであります。また教育学藝術アルプの當うように人格を開拓することであります。開拓とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探求及び職業教育の三つの項目を挙えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っておりますが、崩壊においては、人間形成に重点を置いております。要するに、学術探求、職業教育によつても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、学術探求も職業教育もありえないであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育競技、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就業斡旋などあらゆる部門、すなわち常往坐臥そのものが重要な基盤を持つことになります。

教育理念

本校は、学園が定める建学綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の実現化を目的とする教育と研究を実践し社会に貢献します。

「三大建学綱領」

人間形成：我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い國際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成します。

技術革新：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に鑑識に対応する技術者を育成します。

産業協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

学園共同体の理解

建学の実現に向けて、学園の理事、教職員は、次のことを理解することが強く求められています。

- 1) 工学アカデミアとは、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が学園共同体の一員として行動する際、意思決定の根柢をなす価値群である「K.I.T.-IDEALS」を共有し、お互いが必要な知識や経験を与え合いで、共闘と共創による知恵の生産を行なう場です。
- 2) 教育とは、学生が持つ潜在能力を引き出して総合的に伸ばしていくことです。すなわち、学生の「知性、感情、帰性」を涵養することにあります。教育附加価値とは、本校における学習や経験全般から獲得した知識や技術だけでなく、価値観や態度を伝達する総合的な「人間力」です。
- 3) 学園の活動は、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）や企業、保護者、社会等の要求に応える「サービス」を成熟させ、その卓越性を追究することです。

(出典 学生便覧 2012 P.6-7)

資料1-1-①-3

工学アカデミアとKIT-IDEALS

KIT IDEALS

「学園共同体が共有する価値」に基づく信条(行動規範)

私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“KIT-IDEALS”として定め、これらに基づく信条を次の通りまとめました。

これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することにより学園共同体の向上・発展を目指します。

K	Kindness of Heart	思いやりの心 私たちは〔素直、感謝、謙虚〕の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
I	Intellectual Curiosity	知的好奇心 私たちは〔情熱、自信、信念〕を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
T	Team Spirit	共同と共創の精神 私たちは〔主体性、独創性、柔軟性〕を持つことに努め、共謀と共創による 絶えざる改革を進め、前進します。
I	Integrity	誠 実 私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
D	Diligence	勤 勉 私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
E	Energy	活 力 私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
A	Autonomy	自 律 私たちは、自律することを大切にし、一人ひとりを信頼し、尊敬します。
L	Leadership	リーダーシップ 私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割における自覚と責任を持ちます。
S	Self-Realization	自己実現 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に屈することなくさらに高い目標に 挑戦することに努めます。

学校法人金沢工業大学

(出典 学生便覧 2012 表紙裏面)

本校の教育目標及び教育実践目標は、使命、教育理念及び学校教育法上の高等専門学校の目的、更には現場技術者として社会から求められる知識・技能・態度を踏まえて策定されたものである（資料1－1－①－1：学則、資料1－1－①－2：建学綱領、資料1－1－①－4：教育の特色）。

資料1－1－①－4

教育の特色

（2）教育の特色

本校は、グローバル化社会に対応できる「心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を推進するため、次の3区分6項目を重視して教育を行っています。

ア、人間形成

イ、エンジニア（技術者）として必要な能力の育成

（ア）創造力、判断力およびリーダーシップを育成する。

（イ）コミュニケーション能力およびキャリア実現力を育成する。

（ウ）幅広い工学の基礎力を育成する。

（エ）高い専門的識能を育成する。

ウ、三位一体の教育および自己点検評価

①人間形成教育および自然学苑研修（穴水自然学苑および池の平セミナーハウス研修）

自然学苑などにおいて開講される「人間と自然」～Ⅲ（1年次、3年次、5年次開講）は、本校の教育で最も重要な「人間形成」を目指す科目です。豊かな自然環境の下、学生と教員が寝食を共にし、ア、思いやりの心を育み倫理観を養うこと、イ、チームワークの大切さを知りリーダーシップを發揮できること、ウ、日本人としての自覚を深めることを目的としています。この教育では海洋活動、グループ討議、校長講話、科長講話、クラスミーティング、自然学苑での共同生活などの活動を2泊3日のスケジュールの中で行います。

②インターンシップ

本校では、4年次の夏期休業中に約2週間の日程でインターンシップを実施しており、開学以来、全学生が参加しています。インターンシップでは就業体験を通じ実社会を認識すると共に、学生が自らの既習成果を自己点検することが出来ます。同時に、この経験を生かして、キャリアデザインの見直しを図ることを目的としています。終了後に行われる研修先企業と保護者を対象にした「インターンシップ報告会」は、学生のさらなる「自己啓発」の動機付けとなると共に、参加される企業担当者と学校の意見交換の場ともなっています。

平成21年度からは、新たにシンガポール、マレーシアおよびニュージーランドなどにおける、海外インターンシップを開始しました。いずれのケースも海外提携校経由によるインターンシップであり、研修中の安全には十分な配慮をすると同時に、派遣中には本校教員が巡回指導に赴いています。

（出典 学生便覧 2012 P. 13）

本校に設置している電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報工学科の各々の目的は、学則に掲げられており、また、各々の学習・教育目標は、学生便覧にカリキュラム全体像と共に明記している（資料1－1－①－5：学則 組織及び定員、資料1－1－①－6：カリキュラム全体像）。

資料1-1-①-5

学則 組織及び定員

第3章 組織及び定員

第6条 本校に次の学科を置く。

電気電子工学科

機械工学科

グローバル情報工学科

第6条の2 電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

2 機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

3 グローバル情報工学科は、情報技術分野に関する専門的能力及び英語による国際的なコミュニケーション能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

第7条 各学科の学級数及び収容定員は、次のとおりとする。

学科	学級数	入学定員	収容定員
電気電子工学科	1	40人	200人
機械工学科	1	40人	200人
グローバル情報工学科	1	40人	200人

2 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときは、異なる学科の学生をもって学級を編成することがある。

(出典 学生便覧 2012 P.34)

資料1-1-①-6

カリキュラム全体像

図2.金沢高専のカリキュラム全体像

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次

一般教育

人間力の基礎となる「読み」「書き」「説き」を基本とした教育。算数教育ならびに

工学の基礎としての数学の「計算する」、物理の「考える」教育を実践します。

充実した英語教育

技術のグローバル化に着目し、外国人教員による少人数での英語教育を実践します。

総合英語・英語スキルズⅠ

総合英語・英語スキルズⅡ

総合英語・英語スキルズⅢ

英語スピーキング練習

自然学苑教育

人間力を育むことを目的とした自然学苑教育(座禅形式で自然に親しむことで人間力を養成する)

人間と自然Ⅰ

人間と自然Ⅱ

人間と自然Ⅲ

創造実験・
創造設計

本校の伝統のものづくり教育理念。エンジニアリングデザインとCDIOを考慮した、オリジナルな教育の生徒です。

生年ごとに準備した知識・技術を駆使し、問題を分析し、解決策を創出し、用いて、運用します。

卒業研究は、5年間の融合化であり、個人またはグループでテーマを決め、研究し、解決します。

創造実験・創造設計Ⅰ

創造実験・創造設計Ⅱ

創造実験・創造設計Ⅲ

創造実験・創造設計Ⅳ

卒業研究

専門教育

学科ごとに、以下の特色ある教育を実施します。

情報化時代に相応しい「情報教育」を、学科ごとに専門科目の中で実施します。

電気電子工学科

電気・電子に関する基礎知識を修得し、回路設計、計測測定、さらにコンピュータ工学や通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子・情報分野を磨きできるエンジニアの育成を目指します。

機械工学科

ものづくりに必要な機械工学の基礎知識を修得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエンジニアの育成を目指します。

グローバル情報工学科

コンピュータとソフトウェア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の要となる情報技術と実践的な英語コミュニケーション力を身につけたエンジニアの育成を目指します。

人間教育は、教養教育、数理教育、英語教育並びに人間形成教育で構成しており、学年とともに高度化される内容になっています。専門教育は、技術教育、技能教育、情報教育、資格取得及びインターンシップから構成されています。

一般教育では、人間力の基礎である「計算する」「読み」「書き」「話す」の4つを基本とする教育に視点を置いています。特に、エンジニアの基盤の顕在化を助長するため、工学の基礎である「数学」と「物理」の基礎力の充実を目指しています。「話す」についてはグローバル化時代を視野にいたる国語力の強化と、外国人教員による英語の少人数教育を実施し、「英語によるコミュニケーション能力の向上」に力を注いでいます。

「人間形成」を教育の根本理念とする本校は、「自然学苑教育」を人間教育の主要科目として必須化し、仲間と寝食を共にする合宿教育を行い「人間力の涵養」に努めています。

専門教育では、積み上げ式の創造実験・創造設計を教育の中心とした、教育体系を構築しています。ものづくりと専門教育を組み合わせることによって、学生の知識の深化に応じた問題発見・解決能力の発揚を図ります。各創造実験・創造設計では、エンジニアリングデザイン手法とデザインシンキング手法を独自の観点で取り込むと共に、CDIO教育理念：①「正しく考える」②「設計する」③「実行する」④「運用する」の要素を修得できるよう基準を再編成し、図3に示す2020年代の実践的な技術者に必要な資質の養成を目指します。

(出典 学生便覧 2012 P. 11)

本校を卒業した時点で身につけるべき学力や資質・能力も、前述した使命、教育理念、教育目標等との関連から、「人間性」「創造性」「国際性」「基礎力」及び「専門力」の5項目に分類し、学習する際の指針として、11項目を設定し明確にしている（1-1-①-7資料：学生便覧 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力）。

資料 1-1-①-7

卒業時に身につけるべき学力や資質・能力

図4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力

規定・目標	標準	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力
建学の精神 人間形成 技術革新 産学協同	行動規範 H.I.-CODES H: Kindness of Heart I: Integrity C: Intellectual Curiosity D: Design E: Energy A: Autonomy L: Leadership S: Self-realization 新日本語	人間性 ①自己で考え、主体的に行動することができる。 ②技術者としての倫理や責任に基づいた意思決定ができる。 資質 A
		創造性 ②専門知識・技術を組み合わせ、ものづくりができる。 ③メンバーとしての尊厳と責任を持ち、リーダーシップを發揮できる。 資質 B
教育目標 21世紀を担う、 心豊かで、 創造性にあふれた エンジニアの育成	学習規範 CDIO C: Conceive D: Design I: Implement O: Operate 新日本語	国際性 ④国語でコミュニケーションができる。 ⑤国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。 資質 C
		基礎力 ⑦自然科學（数理科目）および工学の基礎を理解できる。 ⑨論理的な考え方ができる。 資質 D
		専門力 ⑩専門知識と技術を用い工学的な問題を解決できる。 ⑪科目間の相互関連性を理解し、専門全体を網羅できる。 ⑫各学科で達成する目標を指導できる。 資質 E

(出典 学生便覧 2012 P. 12)

これまでに示した本校の「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」及び「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」は、学校教育法第115条に示されている「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」に基づき策定されている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、高等専門学校の趣旨である「実践的・創造的技術者を養成する高等教育機関」として、「使命」「教育理念」「教育目標」及び「学科ごとの目的と学習・教育目標」を定めているほか、達成しようとしている成果「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」を明確にしている。これらは、学校教育法上の目的を踏まえて策定していることに加えて、本校の最大の特色である「大学と教育・研究の環境及び支援組織を共有する」ことが基盤となっている。

以上のことから、本校は、高等専門学校としての目的、学科ごとの目的を個性や特色に応じて明確にし、その目的は学校教育法の定める目的から外れるものではない。

観点1－2－①：目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」及び「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」は、学生便覧ならびにウェブサイトに全て掲載し公開している。学生便覧は、毎年、全ての教職員と学生に配付し、教職員には年度始めに校長より学務会議及び非常勤を含めた教員会議で、学生には教員からオリエンテーションで説明している（資料1－2－①－1：学生便覧、資料1－2－①－2：金沢高専の概要、資料1－2－①－3：教員会議の議事録、資料1－2－①－4：オリエンテーション（写真））。

資料1－2－①－1

学生便覧 2012



(出典 学生便覧 2012 表紙)

資料 1-2-①-2

金沢高専の概要

(出典 金沢工業高等専門学校ウェブサイト)

資料 1 - 2 - ① - 3

教員会議の議事録

平成 24 年度 第 1 回 教員会議事録 The 1st Faculty Meeting in Fiscal 2012

日 時： 平成 24 年 3 月 29 日 (木) 9:30~11:30 Date March 29th, 2012
場 所： 高等合同講義室 Place Room#101
出席者： 別添 1 参照

- 新任教員紹介 New Teachers Introduction
 - 総務教員・非常勤教員紹介
 - 学務委員紹介 Administrators Introduction
 - 校長挨拶 Greetings 第2章 参照

三

1. 調査報告 REPORTS

- 平成24年度学年便ならびに4・5・6月行事予定 College Schedule 2012
別紙3 参照 (提出)
 - 平成24年度当初行事 Schedule for the first week 別紙4 参照 (提出)
 - 入学式実施
 - 対面式・始業式・春式典要項
 - オリエンテーションスケジュール
 - 新規活動予定 (キャリアデザインスケジュール含む)
 - 2・5年HR概要、1年HR概要
 - クラス写真撮影要領
 - 定期検診実施要領
 - 選択科目提出書類 4月3日(火)午前8時20分

- 3) 授業について On Classes 別紙5参照(提出)
○授業変更の届出・記入方法
○学習指導に関する実施規程
○出席簿記入要領・出欠情報入力要領
○平成24年度末修得科目所持学生の指導方針
○授業に関するエビデンスについて
○NZ留学修了学生・出発学生

- 4) 学生係の目標と活動 Information from the office of Students Affairs 第6参照（大成）

 - 学生指導の規程（平成24年度）
 - 平成24年度学生係目標
 - 学生係の主業務と主担当
 - 旗担当者・特別区域清掃
 - 嘴笛担当者・巡回担当

- #### 5) 安全管理 Safety Information

- 6) 事務局所管業務関係連絡 Information from the Administration Office
○部室の机・椅子の移動 別紙 8 参照（山岸）
7) その他

中国书画函授大学

第2回 平成24年4月27日(金) 16:20~ 高等会議室
The 2nd April 27, 2012 16:20~ Room B101

* 主事・科長・主任・副主事・副主任および昇任された先生は、3月31日（土）午前10時00分から
L110室にて詰合会式があります。9時50分までにL110室にお集まり下さい。

*新任の先生は、4月2日（金）午前8時40分からL110室にて辞令交付式があります。8時30分までにL110室に集合下さい。

*常勤教職員の方は、4月3日（火）午前8時20分にプラ内にお集まりください。教職員の集合写真撮影も行います。非常勤教職員の方もご参加ください。お問い合わせ下さい。

四

(出典 教員会議資料)

資料1-2-①-4

オリエンテーション（写真）



(出典 高専事務局資料)

特に「教育理念」は、本校の教育の根幹を成すものであるため、三大建学綱領は毎日の学生の登下校、教職員の出退勤時に目に留るように玄関に掲示し、全教職員にはこれらの考え方を示したイーグルブックを配付すると共に、毎月発行する学園の情報誌「旦月会報」の表紙にも印刷している（資料1-2-①-5：玄関（写真）、資料1-2-①-6：イーグルブック、資料1-2-①-7：旦月会報）。また、学生には、KIT-IDEALS を教材の裏表紙や全ての教室に掲示し、日々の行動の規範となるように配慮している（資料1-2-①-8：キャリアデザインノート、資料1-2-①-9：実験ノート、資料1-2-①-10：教室の掲示）。

資料1-2-①-5

玄関（写真）



(出典 高専事務局資料)

資料 1-2-①-6

イーグルブック



(出典 イーグルブック)

資料 1-2-①-7

旦月会報



(出典 旦月会報平成 24 年 4 月号表紙)

資料 1-2-①-8

キャリアデザインノート



(出典 キャリアデザインノート)

資料 1-2-①-9

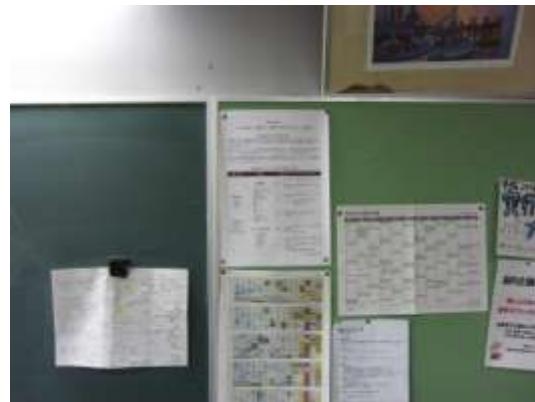
実験ノート



(出典 実験ノート)

資料 1－2－①－10

教室内の掲示



(出典 高専事務局資料)

教職員に対する教育理念に関する説明は、新規採用者を対象とした新規採用者研修会にて学園理事長が説明することをはじめとし、全教職員が参加する新年互礼会、学園創立記念日、教職員の親睦団体である旦月会春の総会・冬の総会において学園理事長より説明され、教育目標を含めた教育方針を校長より説明している（資料 1－2－①－11：新規採用者教職員研修会、資料 1－2－①－12：新年互礼会、資料 1－2－①－13：校長説明）。ここで述べられた内容は、「旦月会報」にもそのまま全文掲載され、全教職員に配付して理解を深めるための策を講じている。また、これらの内容は、学生も閲覧できるように校内のウェブサイトにも掲載している（資料 1－2－①－14：月刊ケイアイティ）。

資料 1-2-①-11

新規採用者教職員研修会

平成24年度 第45回

新規採用者教職員研修会を開催

建学の理念・学園の現状を学ぶ

平成24年度の新規採用者を対象とした教職員研修会は、4月3日(火)午後1時から21号館505室で開催された。

研修会は平成23年5月以降に採用された者を含む50人の新採用教職員が出席し、本野康秀明倫館事務局長の司会で進められた。講師を明倫館塾頭で日本学研究所の平泉隆房教授、黒田壽二学園長、谷正史産学連携推進部長、常任理事が務めた。

最初に平泉教授が「日本人について」と題し、E・S・モース「日本その日その日」の一節から、外国人から見た日本人の誠実かつ勤勉である国民性について解説された。

また、明治期にわが国に医学を伝えたエルウェイン・ペルツが著した「ペルツの日記」の一節を引用し、かつて外国人をして驚嘆せしめた日本人の秩序正しい国民性や美風が失われつつあることについて語られた。

次いで、講義の合間に学園の全容を把握していただく



本学園の歴史と沿革などを語る黒田学園長

ためビデオによる大学の概要ならびに学園の構成や施設について紹介した。

次に、黒田学園長が、本学園の歴史と沿革、三大建学綱領が策定された経緯について語られ、半世紀を経た現在も学園創設時の思想が受け継がれていることを示し、「建学の理念」について解説された。

さらに、中央教育審議会委員を歴任された知見から大学に対する国の政策に関する歴史と現在の情勢について説かれ、新採用教職員一同の発奮を促した。

続いて谷部長は「学園の現状」について、今年度から開始された大学の第5次教育改革に至った経緯を踏まえ、学園が取り組むべき「教育のビジョン」「教育の実践」「教育の評価と検証」そして「今後の方向性と課題」について詳細な説明があった。最後に法人部から、福利厚生等に関する説明ならびに同メンバーで継続して開催する夏期の穴水湾自然学苑における研修会が案内され、半日に及ぶ研修内容を終了した。

(法人部 田向純)

日本人の国民性について
解説する平泉教授学園の現状について説明をする
谷部長

講師の話に熱心に耳を傾ける教職員



(39)

(出典 旦月会報 平成24年5月号P.39)

資料 1-2-①-12

新年互礼会



厳寒に行われた新年互礼会

学生の秘められた可能性を引き出す

平成24年金沢工大学園新年互礼会は、暮れからの積雪が残る中、1月6日(金)午前10時から多目的ホールで来賓、役員、教職員あわせて527人が出席し厳寒に行われた。国歌斉唱のあと最初に壇上に立った泉勝利郎理事長は、三大建学綱領と、「KIT IDEALS」を教職員の行動規範として示し、「綱領と規範を全ての学園関係者が体現し、学生の指導にあたって欲しい」と求めた。

また、京藤睦重第二代学長や副設営者泉屋利吉翁の言葉

から「教育の王道」について説き、更に来年度の学事運営体制について説明した。

続いて石川憲一学長は、国内外における高等教育に関する各種の動向に触れたあと、本学が推進する第5次教育改革に関して学士課程の教育体制の再編成や履修課程の展開、カリキュラムの再構築など8項目について述べ、工学アカデミアの構築と達成のために教職員全員の結束を呼びかけた。

金沢高専の山田弘文校長は「新しい年の高専」として、学校運営の重点事項として①修学指導の充実②学生募集と広報活動の充実③グローバル化への対応の加速④認証評価準備の完了の4項目を掲げ、建学綱領と高専設置目的の実現に向けて着実に前進すると意気込みを述べた。

最後に登壇した金原勲副学長は「今年は東日本大震災からの復興元年です。また21世紀最初の辰年でもあります」と前置きして、本年が昇竜の如く隆盛の年であることを祈念し、参列者全員で力強く万歳三唱をした。続いて学園歌を高らかに齊唱し、清女谷界総務課長の司会で行われた新年互礼会は華麗なく閉会した。

(福集室)



真剣なまなざしで聞き入る教職員

資料 1-2-①-13

校長の説明

一步一歩着実に前進を目指して

新しい年の高専 校長 山田 弘文

新年明けましておめでとうございます。皆様の新年を心からお慶び申し上げますと共に、本年のご健勝を祈念申し上げます。

旧年中は、金沢高専に対しご支援とご指導を賜り、有難うございました。本年もよろしくお慶び申し上げます。

昨年この席で、四つの目標を申し上げました。

第一は、CDIO教育の推進でした。CDIO理念は学生が使える技術、技能、知識や態度を含むコミュニケーション力等を持つことを目的としています。本校が提案から目指してきた「実学」のそれと同一であり、昨年度のCDIOシンポジウムでは本校の取り組みが注目され一定の評価を戴いたと判断しますので、方向は定まつたものと判断

(9)

しています。

第二は学生募集でした。募集委員会による「石の上にも三年」の努力が実ったと考えております。

第三は、修学指導の充実でした。全校挙げてのFD活動のほか、学園のご配慮により新たに師範塾の研修をしました。この結果を生かせば、学生諸君が教育の全過程と課外活動に意欲的に取り組み「KIT IDEALS」の資質を具備し卓立つ指導が進むと考えています。

第四は、認証評価準備を進めることでした。自己点検評価書を作成し、学校教育全体を第2回目の受験の尺度に合うように整理すると共に、学生諸君が理解容易なよう再配列することとしました。同時に学位授与機構が注目している英語教育についても、CLE²の充実や金沢統一テストを実施して対応の目途をつけることができました。

以上のような昨年度の結果を踏まえ、新しい年の高専としては次の四点を重点に学校運営を進めます。

24年度の重点目標

第一は、修学指導の充実です。

本校は、創立以来ものづくりを主柱とした「実学」教育に力を入れてきました。「CDIO理念」をものづくり教育に融合させるため、教育の初心に立ち返って中身の充実を図るために学生の基礎力の強化、具体的な生きた専門知識の付与、コミュニケーション力の充実、リーダーシップの醸成、デザインシンキングの採用に力を入れます。また、学生が理解容易なように、教育目標の再整理や関連する事項の表現の統合・一貫化を図とともに独自のシラバスを作成して「生きた教育」に近づける体系構築を目指します。同時に、年末のFD研修の結果を生かし、教職員自らも変わらたいと思います。学生指導については、継続してあいさつ、時間遵守、服装指導を重視して参ります。こうして育った多くの学生諸君が、金沢工に進学することを期待します。



修学指導の充実について述べる山田校長

第二は学生募集や広報活動の充実です。少子化に加え公立高校が学生定員を増やすなど、募集を數々難境は昨年よりも更に厳しい状況にあります。成果が上がっている募集委員会主体の対面募集を継続します。その一方で、社会はグローバル化にチャレンジする卒業生を求めています。本校の特徴を全面に出しながら教育に関する対面広報を行って、躍進壮大の基盤を築くよう努力します。

第三はグローバル化への対応を加速させることです。幸い、若い教員の方々の発奮で開始した「技術系グローバル人材開発」活動は、企業からも高く評価され、学生の就職分野にも直結する気配が出てきました。従来の英語教育、CLE²、海外インターンシップを更に推進すると同時に、これを契機に海外の提携校からもインターンシップの受け入れ、マレーシアやベトナム等の実学志向の高等教育機関と教員レベルの教育研究交流、及びJICAとの連携事業の推進など実績を重ねて、グローバルな教育環境の確保に努めます。

第四は、認証評価準備を完成することです。私学の独立性と教育理念を順序立てて説明し、正しく評価していただける準備を進めます。必要な時期までに学校運営全般について全教職員の意識をそろえ、対応できるようにします。

以上これら四点を主目標とし、建学の精神並びに高専の設置目的実現に向け、着実な前進をはかる所存です。旧暦のご賀言ご支援をお願い申し上げます。ご清聴有難うございました。



学園歌を合唱する教職員

平成24年1月6日

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

資料 1-2-①-14

月刊ケイアイティ

学内誌ダウンロード

月刊ケイアイティ 本学園の教職員向け情報誌（1ヶ月会報）を学生の皆様にもお届けします。

平成24年5月
24年5月 ► [CLICK](#)

24年4月 ► [CLICK](#)

[バックナンバーはこちら>>](#)

CAMPUS 今が工業大学に関する各種データ（組織・教育・研究実績・連絡）や学外評議、[「学生設計競技」](#)のポイント、学生のななさんの活動などをキヤンバタ内に公開。

CAMPUS 2011 ► [CLICK](#)

CAMPUS 2010 ► [CLICK](#)

CAMPUS 2009 ► [CLICK](#)

CAMPUS 2008 ► [CLICK](#)

CAMPUS 2007 ► [CLICK](#)

CAMPUS 2006 ► [CLICK](#)

CAMPUS 2005 ► [CLICK](#)

CAMPUS 2004 ► [CLICK](#)

もどる

(出典 学内誌ダウンロード用ウェブサイト)

また、入学式と卒業式では、学園理事長及び校長が「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」及び「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」について言及している。この内容も新年互礼会と同様に「旦月会報」に活字として掲載され、全教職員に配付されると共にウェブサイトにもアップしている（資料1-2-①-15：入学式式辞・告辞）。

資料1-2-①-15

入学式式辞・告辞

出会いを大切に 生涯付き合える友人を作れ

式 辞 校 長 山田 弘文

本日ここに、内外のご来賓並びに保護者各位のご臨席を賜り。平成24年度の金沢工業高等専門学校の入学式を挙行できますことは、本校教職員と在校学生一同の喜びであり。心からお礼申し上げます。

新入生の諸君、入学おめでとう。本校を代表しお祝い申し上げます。また、保護者の皆様方、お子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。



「本校の教育の基本は『人間形成』です」と式辞を通じて山田校長

さて、131人の新入生諸君は、本日ただいまから本校の学生となり、「技術を通じて社会に貢献する専門家になる」と言う目標に向かって、スタートしました。諸君は、この事実を自覚し、自信と誇りを持って今後の5年間にわたり研鑽を重ね「心豊かで創造性に富れた技術者」となるべく、努力するよう要します。

本校は「人間形成」「技術革新」「産学協同」を教育の基本とし、他の高専では実現ができない大学と一体となった環境で、諸君の将来だけでなく卒業後直ぐにでも独立「実学教育」を、時代を先取りして実施しています。

本校の教育には、創造実験或いは創造設計と呼んでい

るものづくり教育、全員参加のインターンシップ、30回に渡したシンガポール研修旅行、CLE³、外国人教員による専門技術教育及び英語教育、情報教育、CDIOイニシアティブといわれ日本の高専で最初に加入した世界規模の教育改善活動、教員が勉強する教師学講座や育友会の職業訓練講座の実施など、多くの特徴があります。

本校は、優秀な教員と特徴ある優れた教育環境を整備し、授業料の何倍もの価値がある日本一の教育を行っていると確信しています。全教員は、分かりやすい授業の工夫をし、面倒見が良いという自負心を持っています。

本校の教員は、諸君の素晴らしい能力を目覚めさせる教育をするはずです。然し、この価値ある教育をどれだけ自分のものにできるかどうかは、諸君の努力如何にかかっています。なぜなら、高専は高等教育機関であり、学生が自主的に勉強するところであるからです。高専の5年間の結果は、学生諸君自らが勝ち取るものであり、教員は諸君が進むべき方向をアドバイスする立場にあることを忘れてはなりません。この就職氷河期においても、諸君の先輩が、希望の大学進学や企業への就職を達成し卒業できた時には、先輩たちが積極熱心に学んだ結果があることを伝えておきます。

さて、本校の教育の基本の第一は「人間形成」です。このことは、将来的エンジニアは誰からも尊敬されるような「中身」も「形」も立派な人間であるべきことを意味しています。むしろ「エンジニアである前に紳士や淑女であれ」と言ったほうがよいのかかもしれません。本当の紳士・淑女は、薄い教養を備え、道徳を守り礼儀正しく、正義を重んじる等、全ての人々の手本でなければなりません。そうなるためには、学校における厳しい修行が必要です。本校の「人間形成」教育も同様で、形を身につけることや接客指導から始まります。しっかりとネクタイを締め、制服や威儀を正して登校し、大きな声であいさつできることを在校間の目標としているのはこの

「やればできる」を信じてチャレンジを

告辭

理事長 泉屋 利郎

本日ここに、平成24年度金沢工業高等専門学校の入学式を挙行するにあたり、学園理事会を代表して、ごあいさつを申し上げます。

今日の入学式は、私どもにとって意義深い1回目の式典であります。これまでの50年間に、多くの人材を輩出した育みが、奥深く優れたものであったと確信するとともに、これまでご支援いただいた各方面の方々に深く感謝いたします。今日から新しい歴史が始まります。

この記念すべき年の新入生の皆さんを、心から歓迎いたします。また、ご多用の中にもかかわらず、新入生の前途を励ますために、ご臨席賜りましたご来賓とご家族の皆様に厚く御礼を申し上げます。

新入生の皆さんには、本日から5年間の学生生活がスタートします。まずその冒頭に、本学園がめざす教育の基本的な考え方についてお話をします。

第一は「高邁な人間形成」「深遠な技術革新」「雄大な産学協同」という建学の綱領を教育の原点に据えていることであります。私たちはこれを三つの大きな旗標（旗じるし）として掲げていますが、「日本人としての確かな信念を持ち、人間性豊かで、国際社会に貢献できる科学技術者を育てる」ことを目標としています。

第二は、工学技術を学ぶにあたっての指針を示す「三つのT」についてであります。「真理・Truth」のT、「理論・Theory」のT、「科学技術・Technology」のTであります。これから皆さんは学問を通して真理を見きわめ、さらに理論を組み立て、その結実として優れた科学技術者に成長されるよう学園関係者一同とともに期待しています。

第三は、新入生の皆さんを含めた全学生と教職員、そして学園を運営する理事者とが三位一体となって学園の協力関係を築きあげるということであります。

以上三つの理念を、日本では白山など高く険しい山地

に生息する「イヌワシ」、ヨーロッパではゴールデンイーグルと呼ばれる大きな鷲が、高い空を悠々と飛翔する姿に託して本学園のシンボルとして校章にデザインいたしました。今、私や皆さんの胸に輝いているバッヂがそれであります。常に身につけて、金沢工業高等専門学校の学生であることを自覚するとともに、自分を向上させるための指標としてください。

さて、皆さんはこれから5年間の時間の使い方によ



「自らの目標に向かって積極的に学んで欲しい」と告辞を述べる泉屋理事長

って、今後の一生が左右されるといつても言い過ぎではありません。

本学園は、皆さんの活動のために他の学校にはない様々な教育環境を用意しております。この環境を充分に活用して自らの課題を見つけ、自らの目標に向かって積極的に学んでほしいと思います。

実験室を含めた教室での勉強は言うまでもなく大切であります。しかし教室での勉強だけでは充分とはいません。教室を出てあらゆる時間を有効に使って自らを高め、国内社会はいうまでもなく国際社会にあっても、自分は何者であるかを明快に表現できるようになるために、自分の生きるべき道を学び、身につけてください。

(19)

(出典 旦月会報 平成24年4月号 P.17-19)

近年は、社会からの要請に伴い、「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」の見直しを図ると共に、「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」の位置付けを整理した文書を全教職員に配付し、教員会議にて校長が直接説明した（資料 1-2-①-16：「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」の修正について）。

資料 1-2-①-16

卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」の修正について

平成 24 年 1 月 27 日

高 専 教 職 員 各 位
兼任・非常勤講師 各 位

校長 山 田 弘 文

「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」の修正について

学生便覧の“学科の特色”のページに記載されている國中の「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」について、より分かりやすくするために、別紙 1 のとおり修正を行いましたので確認願います。

なお、大学評価・学位授与機構が行う認証評価では、「使命」から「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」までを含め達成しようしている基本的な成果を『本校の目的』とし、それを踏まえた評価が行われます。この機会に、『本校の目的』に対する認識をより深めてください。

記

1. 基本的使命：学校教育法などが求める高専共通の「使命」

学則第 1 章 目的及び使命

第 1 条 金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

2. 本校は、前項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。

2. 理想像・目的：基本的使命に基づいて各校が定める恒久的な「使命」「理念」「あるべき姿」

建学綱領の教育理念

本校は、学園が定める建学綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミア[®]を形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

三大建学綱領

人間形成：我が国の文化を探求し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成します。

技術革新：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成します。

産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

専工学アカデミアとは、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が学園共同体の一員として行動する際、意志決定の根柢をなす価値群である“KIT-IDEALS”を共有し、お互いが必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場です。

行動規範 KIT-IDEALS

K : Kindness of Heart 思いやりの心
I : Intellectual Curiosity 知的好奇心
T : Team Spirit 共同と共に創の精神
I : Integrity 誠実
D : Diligence 勉勉
E : Energy 活力
A : Autonomy 自律
L : Leadership リーダーシップ
S : Self-Realization 自己実現

3. 目標：理想像・目的を実現していくために策定する「目標」。本校は、建学綱領の中でも「人間形成」を特に重んじている。

教育目標

21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成

4. 中・長期計画と教育実践目標：教育目標を達成するために策定する組織的・戦略的な「計画」と、それを実現するために策定する「目標」

教育実践目標

1. 人間形成
 2. エンジニアとして必要な能力の育成
 - (1) 創造力、判断力及びリーダーシップを育成する。
 - (2) コミュニケーション能力及びキャリア実現力を育成する。
 - (3) 幅広い工学の基礎力を育成する。
 - (4) 高い専門的識能を育成する。
 3. 三位一体の教育及び自己点検評価
- 詳しくは、別紙2及びHP (<http://www.kanazawa-te.ac.jp/outline/outline02.html>) を参照。

5. 各学科の目的：本校の理想像・目的、目標に基づき各学科で定める「目的」

第6条の2 電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

- 2 機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。
- 3 グローバル情報工学科は、情報技術分野に関する専門的能力及び英語による国際的なコミュニケーション能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

6. 各学科の学習・教育目標：各学科の目的を実現していくために策定する「目標」「養成すべき人材像」

電気電子工学科・電気情報工学科は、電気電子に関する基礎知識を修得し、回路設計、計測制御、さらにコンピュータ工学や通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子・情報の分野を融合できるエンジニアの育成を目指します。

機械工学科は、ものづくりに必要な機械工学の基礎知識を修得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエンジニアの育成を目指します。

グローバル情報工学科・国際コミュニケーション情報工学科は、コンピュータとソフトウエア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の基礎となる情報技術と実践的な英語コミュニケーション力を身につけたエンジニアの育成を目指します。

7. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力：各学科の学習・教育目標のほかに、学習する際の指針として定めたもの

- A 「人間性」
 - ① 自分で考え、主体的に行動することができる。
 - ② 技術者としての倫理や責任に基づいた意思決定ができる。
- B 「創造性」
 - ③ 専門知識・技能を組み合わせ、ものづくりができる。
 - ④ メンバーとしての自覚と責任を持ち、リーダーシップを發揮できる。
- C 「国際性」
 - ⑤ 英語でコミュニケーションができる。
 - ⑥ 国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。
- D 「基礎力」
 - ⑦ 自然科学（数理科目）および工学の基礎を理解できる。
 - ⑧ 論理的な考え方ができる。
- E 「専門力」
 - ⑨ 専門知識と技能を用い工学的な問題を解決できる。
 - ⑩ 科目間の相互関連性を理解し、専門全体を俯瞰できる。
 - ⑪ 各学科で推奨する資格を取得できる。

以上

(出典 教員会議資料)

本校では「学校での教育」「学生の自己研鑽」及び「家庭教育」の三つが連携することを重視し、学生、教職員、保護者の三位一体教育を展開していることから、保護者に対しても、様々な機会を通して「使命」等を説明している（資料1-2-①-17：高専の三位一体の教育推進）。

資料 1 - 2 - ①-17

高専の三位一体の教育推進



教育実践目標

～グローバルなエンジニアの育成を目指して～

金沢工業高等専門学校校歌

山田弘文

本校は、「人間形成・技術革新・度量協同」を建学綱領とし、昭和37年の創立以来、5,500余名の卒業生を「実践力あるエンジニア」として社会に送り出して参りました。この間、一貫して「ものづくりを主軸とした年一貫の積み上げ式教育」を中心に、理論に裏付けされた先進的実践教育を実施。地域に根ざした近代的な創立型の私立高専として躍進してきました。平成22年12月には、わが国の高等教育機関（大学、高専）では初めて審査に合格し、「2020年代の技術者育成」を目指した国際的教育改革グループ「CDIOイニシアチフ」に加盟することが出来ました。

本校は、伝統と成果を継承すると共に率先して時代に適合したものづくり教育、情報教育及び英語教育を実施して、グローバル化社会に対応できる「心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を目指します。

本校は、次の3区分の項目を重視して教育を行っています。

1. 人體形態

教育の根本は、「人間形成」にあります。本校の教育は、エンジニアであると同時に個人として、社会人として義務と責任を理解・実行でき、他の機能も含めた全人生を育成します。このため、社会人として必要なルールを身に付ける学生生活と共に、人間形成のための「穴水渓自然学苑研修」「池の平セミナー・ハウス研修」「キヤリファデザイン」などの教育を行っています。また、「全員参加のインターンシップ」、「グループ作業によるものづくり」及び「創造活動や特別活動」などの各種活動を通して全員で力を発揮し、エンジニアに必要な人間力を育成します。

2. エンジニア(技術者)として必要な能力の育成

2. エンジニア（技術者）として必要な能力の育成
株式会社の「技術革新」及び「産業協同」と「CDIO理念」を融合させた先進的な教育を実施し、理論と実践力を身に付けた伸展性あるエンジニアを育成します。
(1) 创造力、判断力及びリーダーシップを育成します。
本校は、ものづくりを主柱とした教育により、実社会で活躍出来るエンジニアを育成します。積み上げ式の科目構成と、グループ活動中心の実務に対応したものづくり教育(創造実験・創造設計)では、工学的興味の高揚やエンジニアに必要な知識・技術と創造性・判断力などの資質と、知識と行動を一体化できる実戦力を養成します。特に、電子学車のものづくりでは、2020年代のグローバルなエンジニアリングに必要な、専門に合ったデザインシンキング、エンジニアリングデザインやエンジニアリングマネジメントの理論を体験学習し、将来の管理者として必要な資質と能力を身に付けます。

(2) コミュニケーション能力及びキャリア実現力を養成する。

「E」コミュニケーション能力の育成(コミュニケーション能力の育成)を目的とする、急速なグローバル化社会の到来によって、エンジニアが国際的に活躍する時代となりました。本校の「グループもののづくり教育を通じた専門的コミュニケーション能力の育成」(英語教育、「工学・環境問題学習(CLE)」、「専門工学科への外国人専門教員の配置」、「ニュージーランド留学プログラム」)および「国際交流」などは、将来のエンジニアに必要なコミュニケーション能力を育成するとともに、これらに併行した1年次~5年次までのキャリアデザインノートを使用した育成は、グローバルなエンジニアになれためのキャリア実現力を高めします。また、地盤構造センターが中心となって学生主体の「出前授業」、「イベント協力や懇親会」のほか、「地域中学校の基礎教科協力」など地盤構造活動を実施し、社会経験を通じ実践的なコミュニケーション能力の育成を助長しています。

(3) 墓地の工事の基礎力を構成する。

社会生活に貢献する実学(じつがく)をつかさどるエンジニアには、ものごとを科学的に捕らえ、客観的に表現できる能力が必要です。本校では、数学、物理および化学等の基礎的な工学の和目を、現実に対応させて段階的に教鞭することによって、応用可能な幅広い工学の基礎力を養成します。

(4) 機芯轉門的頭殼左面成手心。

実践的エンジニアは、工学に関する広い知識に加え高い専門力を蓄積することで、問題を発見・解決することができます。本校では、常に先端技術を教育に取り込むと共に先進的な技術教育改革を実施して、高い専門能力を育成します。全国高専唯一の「CDIOイニシアチブ組織」、「創造技術教育研究所」、「金沢工大との教育実験設立委員会」等の活動は、これを支える教育基盤充実活動の具体例です。同時に、理解しやすい授業を実施する教員の教育研修(F-O活動)や研究会を重ねると共に、その成果を「CDIOを始めとした各種シンポジウムや学術会議に向けた外部に発信し、評価を受けています。また、学生の専門力を高めさせためか、積極的に発表」しています。

3. 三位一體の教理及び自己超越課題

本校の教育は、学生自身の自覚はもとより、家庭教育も慶祝した「学生一學校一保護者の一歩協力(三位一体)」教育体制を構築して実施しています。教職員は、「教師学」を研修し、年度ごとに「育才改善の取り組みと今年度の目標及び成果」開示により教諭を自己点検評価します。生徒会は「親美セミナー」を研修して、家庭教育の重要性を再認識します。学生には「期記名による総合アンケート」、卒業生およびその就職先企業には「本校教育に対するアンケート」を実施し、教育の共有と改善を推進でています。

【注】CDIOとは：C：Conceive(正しく考える)、D：Design(設計する)、I：Implement(実行する)、O：Operate(運用する)の略。CDIO標準は：卒業論文において、企業におけるシステム化されたものづくり環境で、実際に立つ知識と能力を養成した学生を育成する。】

教職員及び学生が、「使命」等を「実際に知っている」ということを把握するために、総合アンケートにて調査し、把握している（資料1-2-①-18：KTC 総合アンケート）。

資料1-2-①-18

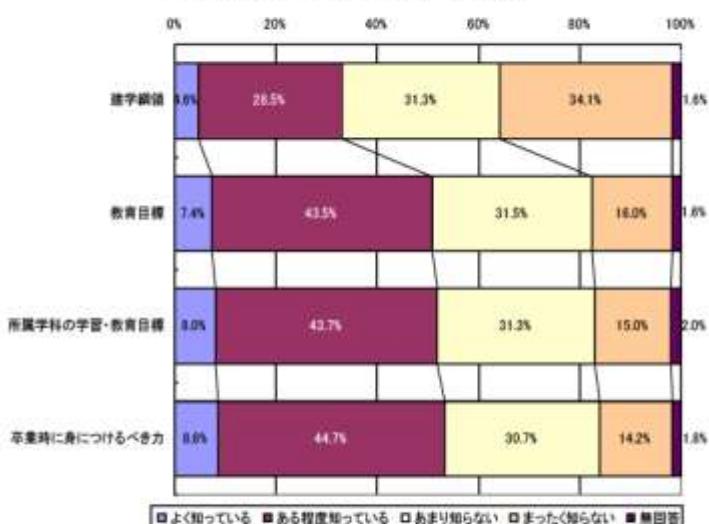
KTC 総合アンケート

<4-1> KTCの目的・目標に関して

■KTCの目的・目標に対する意識

- 「KTCの目的・目標」に関する質問は今回から加えた質問であるが、「建学綱領」「教育目標」などの内容を知っているかどうかを聞いている。
- 「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計で見ると、「建学綱領」を知っているという回答は33.1%であり、学生の1/3程度であった。
- あとの3項目はほぼ同じであったが、「教育目標」は50.9%、「所属学科の学習・教育目標」は51.7%、「卒業時に身につけるべき力」は53.3%であり、ほぼ半数が知っていると答えていた。

■KTCの目的・目標に対する意識（在学生のみ）

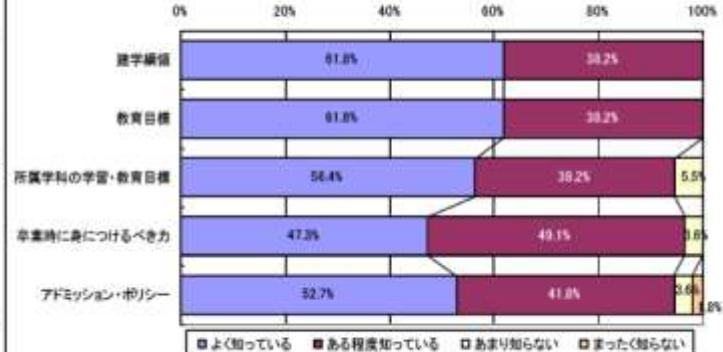


<8-2> 教職員の意識に関して

■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 今回から「建学綱領」「教育目標」などの認知度に関する質問を加えているが、それらを見ると全ての項目で、100%に近い認知度であった。
- 「建学綱領」と「教育目標」の回答は全く同じであり、「よく知っている」が61.8%、「ある程度知っている」が38.2%で、合わせると100%の認知度であった。
- 「所属学科の学習・教育目標」は94.6%、「卒業時に身につけるべき力」は96.4%、「アドミッション・ボリサー」は94.5%の認知度であり、認知度は全体的に非常に高かった。
- この質問は学生にも行っているが、「建学綱領」の認知度は33.1%、「教育目標」は50.9%、「所属学科の学習・教育目標」は51.7%、「卒業時に身につけるべき力」は53.3%という結果であった。

■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識（教職員）



(出典 KTC 総合アンケート)

(分析結果とその根拠理由)

本校の「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」及び「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」はすべて学生便覧に掲載し、教職員及び学生に配付することにより周

知を図っている他、教職員に対しては、定期的な会議や研修において説明することにより絶えず教育の目的を振り返る機会を設けている。学生には、学年始めのオリエンテーション、教室への掲示、教材への記載、式典での説明等、様々な機会を通して日頃から意識するように配慮している。また、学校の構成員は教職員、学生に加えて保護者も含むという考え方のもと、保護者に対しても同様、周知を図っている。

「使命」等の周知状況を把握するためのアンケート調査において、非常勤講師を含む全教職員については約9割が本校の使命を知っていると回答している。また、学生の約5割が知っていると回答している。

以上のことから、本校では、目的が、学校の構成員に周知されているといえる。

観点1－2－②：目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」及び「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」は、ウェブサイトに掲載することによって、社会に広く公表している。平成23年度から「情報公表」が義務化されたことに伴いホームページも一部見直し、「使命」等も階層ごとに読み易くするための工夫を施した（資料1－2－②－1：金沢高専の概要）。また、社会からのホームページの閲覧状況を把握するために、毎月、開催される教育支援機構連絡会でアクセス件数を確認している（資料1－2－②－2：アクセス件数）。

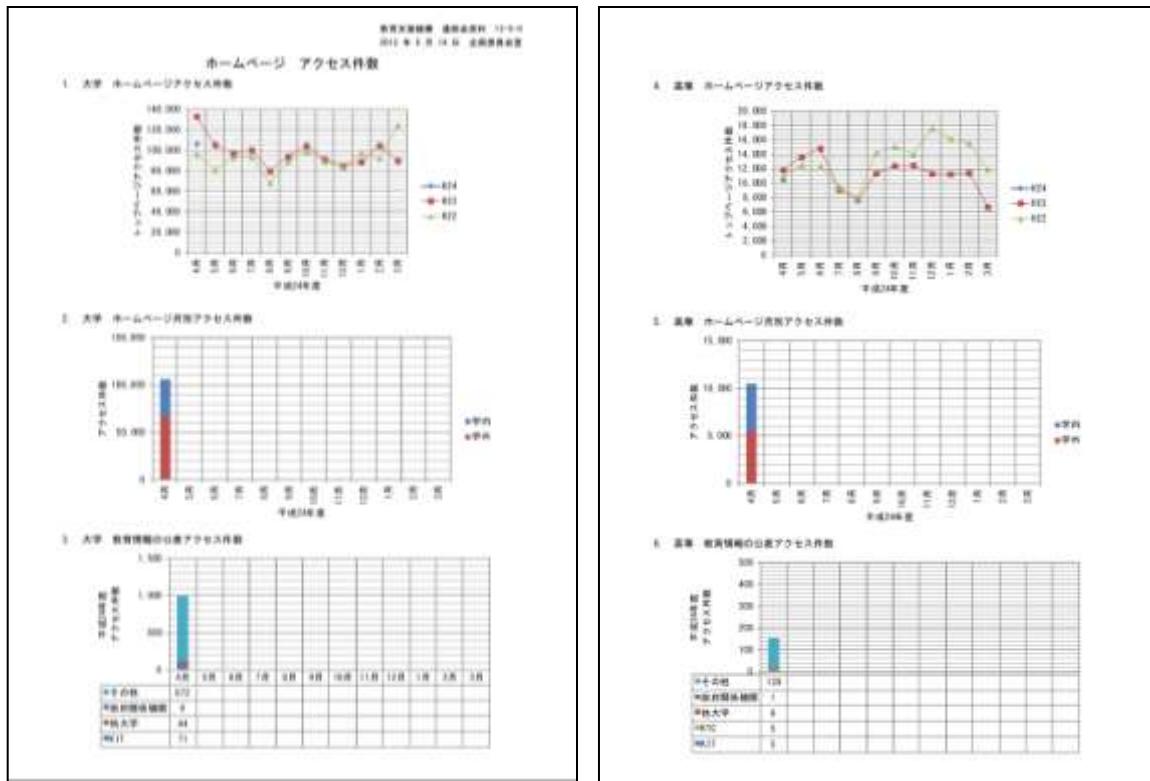
資料 1-2-②-1

金沢高専の概要

(出典 金沢工業高等専門学校ウェブサイト)

資料 1－2－②－2

アクセス件数



(出典 教育支援機構連絡会資料)

「入学案内」は、11,000 部作り県内の全中学校に配付すると共に、教職員が石川県内の中学校約 90 校を年に 3 回訪問しアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをはじめ、「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」を説明している（資料 1－2－②－3：入学案内）。また、平成 23 年度より富山県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府の約 1,000 校に送付している。また、毎年 8 月、10 月、11 月に開催する体験入学、オープンキャンパス、入試説明会でも入学案内を配付すると共に、中学生とその保護者に説明している。平成 23 年度の体験入学参加者は中学生 398 名、保護者 47 名の計 445 名、オープンキャンパス参加者は中学生 79 名、保護者 25 名の計 104 名、入試説明会参加者は中学生 90 名、保護者 93 名の計 183 名であった（資料 1－2－②－4：体験入学、オープンキャンパス、入試説明会参加者数）。

企業に対しては、求人票に入学案内を同封して周知を図ると共に、企業説明会や企業訪問にて、直接説明する機会を設けている。

資料 1 - 2 - ②- 3

入学案内 「教育理念」 「教育目標」 「各学科の目的と学習・教育目標」



機械工学科
Department of Mechanical Engineering

身につく技術力

実習工場で機械工学の知識と技術
コンピュータによる機械設計の知識と技術
コミュニケーションを駆使する知識と技術
組織運営の知識と技術
社会人としての態度と技術
以上は実験室にて実験する事から
得られる知識と技術

主な実習科目

- 機械設計実習
- 電気機器実習
- 自動車工科実習
- 工業測定実習

主な研究テーマ

- 機械構造設計
- 機械加工技術
- 機械装置設計
- 機械装置製作

カリキュラム

■創成設計技術カリキュラム

1年次	2年次	3年次	4年次
機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作

■専門科目

1年次	2年次	3年次	4年次
機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作

■第一教育

基礎教育
専門教育
実践教育
就労教育

グローバル情報工学科
Department of Global Information Technology

身につく技術力

情報処理やシステムなどの基礎知識
データベース構築とデータ分析の基礎知識
コンピュータに関する基礎知識
ITにおけるデータの知識と技術
創造的問題解決能力をカタチにすること

主な実習科目

- データベース実習
- データ構造実習
- データ構造実習
- データ構造実習

主な研究テーマ

- ソフトウェア開発実習
- 英語音声認識実習

カリキュラム

■創成設計技術カリキュラム

1年次	2年次	3年次	4年次
機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作

■専門科目

1年次	2年次	3年次	4年次
機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作	機械設計 機械加工 機械装置設計 機械装置製作

■第一教育

基礎教育
専門教育
実践教育
就労教育

(出典 入学案内 金沢高専 2012 P. 40-41 P. 32-37)

- 32 -

資料 1-2-②-4

体験入学、オープンキャンパス、入試説明会参加者数

学生募集行事参加人数（平成18年度から23年度）

単位：名

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
体験入学	230	265	171	356	513	445 398+ (47)
オープン キャンパス	80	96	77	82	132	104 79+ (25)
入試説明会	87	72	82	114	182	183 90+ (93)

脚注：（ ）は保護者数

（出典 募集行事資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」及び「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」等は、ウェブサイトに掲載している他、入学案内には、「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」を記載し、中学校訪問や体験入学、オープンキャンパス、入試説明会で積極的に説明している。就職先企業には、就職先への企業訪問時または郵便で入学案内を配付している。また、本校のホームページ中の情報公表のページは、平成23年度は政府機関から9件、教育機関から101件、一般から2,605件、校内から175件、合計2,890件閲覧されていた。以上のことから、本校の「使命」等は、社会に対して広く公表しているといえる。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校は「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」を定め、卒業時に身に付けるべき学力・資質・能力を5項目、学習する際の指針を11項目に独自に設定して明文化している。本校における周知については、毎年学生と全教職員を対象に行うKTC総合アンケート調査の中に設問を設けており、「建学綱領」「教育目標」については全教職員が「知っている」と回答していることから、周知に関する成果を上げていると認識している。

学外への周知においては、従来までのウェブサイトを見直し、アクセス件数の月毎の確認を行っている。また入学案内も県内ののみならず富山県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府の中学校へも送付し、全国の就職先企業に対しても求人票の送付の際に同封するなど、広く社会への周知を図っている。

（改善を要する点）

学生の使命等の周知について、さまざまな施策を行っているものの、KTC総合アンケートにおいて「知っている」が5割という現状であり、10割を目指し更なる改善を図りたい。

本校では、その「使命」「教育理念」等を社会に広く周知する目的で体験入学、オープンキャンパス、入試説明会の中学生と保護者を対象としたイベントを開催しているが、オープンキャンパスは体験入学に比べて参加者が約4分の1という状況であり、参加者を増やすための改善が必要であると認識している。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校は学園が定めた「人間形成」「技術革新」「産学協同」の三大建学綱領に基づいた工学アカデミアを形成するためのKIT-IDEALSと呼ばれる9つの価値群で表現された行動規範を、学生・理事・教職員で共有している。

具体的な教育目標及び教育実践目標は、使命、教育理念及び学校教育法上の高等専門学校の目的、更には現場技術者として社会から求められる知識・技能・態度を踏まえて策定され、本校を卒業した時点で身につけるべき学力や資質・能力を「人間性」「創造性」「国際性」「基礎力」及び「専門力」の5項目に、学習する際の指針を11項目に分類して明確にしている。これらは学校教育法上の目的を踏まえて策定していることに加え、本校の最大の特色である「大学と教育・研究の環境及び支援組織を共有する」ことが基盤となっている。

本校の「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」及び「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」は、学生便覧ならびにウェブサイトにて全て公表されている。学生便覧は、毎年、全ての教職員と学生に配付し、教職員には年度始めに校長より学務会議及び非常勤講師を含めた教員会議で、学生には教員からオリエンテーションで説明している。

近年では「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」の見直しを図り、「使命」「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」の位置付けを整理した文書を全教職員に配付し、教員会議にて校長が直接説明するなど、社会からの要請に伴った修正と周知も行っている。

こうした学内への周知努力は毎年行うKTC総合アンケートでも、全教職員が「建学綱領」と「教育目標」を「知っている」と回答していることからも成果を上げているといえる。

本校の使命等の社会への公表についてはウェブサイトで掲載している他、入学案内に「教育理念」「教育目標」「各学科の目的と学習・教育目標」を記載し、中学校訪問や体験入学、オープンキャンパス、入試説明会で積極的に説明している。また企業に対しても、企業訪問時での説明や求人票の送付の際に入学案内を同封するなど努力を行っている。本校のウェブサイトの情報公表のページでは、平成23年度は政府機関から9件、教育機関から101件、一般から2,605件、校内から175件、合計2,890件閲覧されており、社会に対して広く公表しているといえる。